HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究ノート ： 芥川龍之介と知里幸恵『アイヌ神謡集』
Author(s)	佐藤, 知己
Citation	北海道大学文学研究院紀要, 171, 39（左）-61（左）
Issue Date	2023-12-08
DOI	https://doi.org/10.14943/bfhhs.171.l39
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/90879
Type	departmental bulletin paper
File Information	04_171_Sato.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究院紀要 171 （2023）

研究ノート：芥川龍之介と知里幸恵『アイヌ神謡集』[1]

佐　藤　知　己

1．はじめに ── 芥川龍之介と『アイヌ神謡集』

1982 年頃，佐藤は偶然，ある方から，歌人であり，アイルランド文学の翻訳家として著名であった松村みね子氏（本名：片山廣子）［1878–1957］について，興味深いお話をうかがったことがある。その方（山田秀三氏，アイヌ語地名研究者［1899–1992］）は，松村氏の義理の息子（女婿）に当たる方で，歯切れの良い江戸弁を話す方だった。芥川は松村氏をわざわざ訪ねてきて，当時，出版されてまだ間もなかった『アイヌ神謡集』を話題にしたそうである。山田氏の口調を再現できないのは残念だが，山田氏のお話は，だいたい，以下のようだったと記憶する。

> 「おじさん（山田氏は，自分の事を私に「おじさん」と言われた）の母親はねえ，松村みね子という，ちったあ名の知られた，アイルランド文学者だったんだがね，芥川さんと親しかったんだよ。母から聞いたんだ

[1] 本稿の内容は 2023 年度「第 65 回北大祭」の企画である「公開講義」において，一般の聴衆を対象として行われた佐藤の講義に基づいている。その折，お世話になった実行委員会事務局の山田涼生氏，ならびに関係の方々に感謝の意を表したい。なお，本稿は，令和 5 年度科学研究費基盤研究（C）（22K0050102）「古文献資料によるアイヌ語史の再検討」（研究代表者：北海道大学佐藤知己）による研究成果の一部である。また，資料の取り寄せに関して附属図書館受入担当，文学部図書担当の方々に多大なお世話をおかけした。ここに記して感謝申し上げる。

10.14943/bfhhs.171.l39

が，ある日，芥川さんが，珍しく興奮して母を訪ねて来てね，「松村さん，最近出た，『アイヌ神謡集』という本をもうお読みになりましたか？」と聞いたんだよ。それで，「いえ，まだ読んでおりませんが。」と母が答えたら，芥川さんが「え？まだ読んでいらっしゃらない？ぜひお読みなさい。素晴らしい本ですよ！」って言ったんだよ。それで，芥川さんがおっしゃるのだから，というので，母もすぐに読んだそうだ。そして，「やっぱり，芥川さんがおっしゃった通りの素晴らしい本でした。」って，おじさんに言ったんだよ。」

あれから 40 年。何気なく聞いた言葉だったが[2]，今あらためて思い返すと，『アイヌ神謡集』は確かに素晴らしい本だとは思うが，いったい，芥川は『アイヌ神謡集』の何にそんなに感心したのだろうか。その点を考えることは，出版後一世紀を迎える『アイヌ神謡集』を新たな視点で見直すことにつながると思うし，アイヌ語やアイヌ文化をより深く理解するきっかけにもなるのではないかと思う。もとより，日本近代文学や西洋文学の専門家でない私が有意義な研究をする能力がないことは自覚しているが，定年を間近に控えた老残の身としては，他に適当な機会もないので，なんらかの記録を残しておきたい，と思った次第である。なお，蛇足に過ぎない憶説ではあるがごく簡単に私見を記しておきたい。

[2] 山田氏について記憶に残っているのは，その非常な慎重さである。若い者を相手にした，単なる雑談であっても，既に論文に書かれていること以外は，不用意に口に出されることは一切なかった。歴史に名を刻むような人物は，不用意なことを言わないものなのだ，ということを痛感した。「アイヌ語の勉強の仕方」をお尋ねした時も，「知里君の本や，『アイヌ神謡集』をお読みなさい。」と，ごく一般的な公式見解しかおっしゃらない。私も若気の至りで，あまりのガードの固さに，ちょっと，気色ばんだ表情を見せたのかもしれない。そこで，この芥川に関する話が出たわけである。「だから，佐藤君も『神謡集』を勉強するといいよ。」とおっしゃったのである。芥川の話が出た後では，さしも蒙昧なる佐藤青年も，だまってうなずくしかなかった。

2．アイヌ語について

アイヌ語の主な分布地域は，北海道，樺太，千島列島である。かつては日本の東北地方にも分布していた。明治以降，話者数が減り，現在，危機的状況にある。アイヌ語がどのようなものであるか知りたければ，ネットで閲覧が可能な「早稲田大学リポジトリ」にある田村すず子氏による諸著作をおすすめしたい。また，近年では，若い世代によるアイヌ語の学習，復興活動が盛んに行われている。その成果は,「アイヌ民族文化財団」のサイトにある「アイヌ語動画講座」などで見ることができる。多種多様なアイヌ語によるコンテンツが作られている。伝統的な歌や物語のパフォーマンスはおそらく現代最高のレベルと言える。また，イラストや紙芝居を用いたユニークな作品も多く作られている。これらの近年のアイヌ語の復興活動も，先人の努力に基づくところが大きいと言えるが，それらも一朝一夕になされたものではもちろんない。その重要な先駆けとなったのが，次に紹介する知里幸恵『アイヌ神謡集』の出版である。芥川の問題意識を考察する前に，アイヌ語，アイヌ文学について，簡単に説明しておく。

3．知里幸恵と『アイヌ神謡集』

切替（2003）によって記せば，知里幸恵（1903-1922）は北海道登別市幌別に生まれたアイヌ民族の女性である。言語学者知里真志保(北海道大学教授)［1909-1961］は弟に当たる。『アイヌ神謡集』は 1923 年に郷土研究社から出版された（今年は刊行から 100 周年に当たる)。ローマ字アイヌ語文の 13 篇の神謡（叙事詩の一種。「折り返し句」を各句の間に差入れて朗唱する）と「序」，金田一京助による後書きからなる。『アイヌ神謡集』がアイヌ文学，アイヌ語の研究上，不滅の価値を持つ本であることは疑いないが，実はアイヌ語テキストには問題があり，慎重な取り扱いが必要な点もある。佐藤（2004）によると,『アイヌ神謡集』のアイヌ語文には，誤植に起因すると推定される，

看過し難い難読部分がある。これは，不運にも，著者が校了前に死去してしまったため，アイヌ語の校正が適正に行われないまま出版された可能性を示唆しており，今後も検討が必要である。著者の責任ではなく，最終段階において，アイヌ語のわかる人間によるチェックが不十分であったことを物語っている。例えば eramuka という単語が現れ（第 8 話 77 行目），現在の主要な注釈書においても eramuka「～にはすることがない」のような説明がなされている。しかし，この形式は他のアイヌ語資料には全く現れない。結論だけ述べると，現在「eramuka patek」のようにスペースを入れて二語のように印刷されているのは，実は誤植に基づく誤りで，正しくは「eramukapatek」という一単語として印刷，解釈すべきものだ，ということである。eramuka では何のことだかわからないが，eramukapatek であれば，e-ramu-kapatek「～について・心が・急激にぺっちゃんこになる」（しょんぼりする，やる気をなくす）のような意味に解釈できる。勢いこんで，ここぞとばかり，海の神に人間のことを中傷した「ごめ」が，逆に海の神の逆鱗に触れて，「お前は私を誰だと思っているのだ。私は海の最高神だ。その私の心を，お前のような下賤の者が推し量るなどとは，一体，何様のつもりでいるのか。黙っておれ！」とたしなめられてしまう場面であるので，「所在無げにしている」という日本語訳にもよく対応する。今後は，すぐに気付かれる誤植や，日本語部分の問題のみならず，アイヌ語部分のより深い文法的研究，文学作品としての，内容的な面からの深い研究がもっと必要であろう[3]。

[3] 学術研究は先行研究に対する健全な検討・批判によって発展していく。それは常識である。しかし『神謡集』に関しては，疑義を呈すること自体が，著者や出版社，書籍に対する不当な攻撃と受け止められることがままあるようである。アイヌ語やアイヌ文学を著者は大切に思っていたからこそ，わかる人も少ないアイヌ語原文をわざわざ載せたのではないか。そのアイヌ語原文に著者の責任ではない，校正不備による重大な疑義が残っている可能性があるにもかかわらず，学問的な検討を一切禁じるような態度は，著者の本意に沿ったものと言えるのか，筆者は疑問に感じる。

4．『アイヌ神謡集』には何が描かれているのか
── アイヌ文学の「難しさ」

第１話の「梟の神の自ら歌った謡」は概略，以下のような話である。

> 昔金持ちで今貧乏人である者の子供を，昔貧乏人で今金持ちになっている者の子供がいじめる。フクロウ神は貧乏な子供を可哀想に思い，貧乏な子供の矢に当たってやる。貧乏な子供はフクロウの死体を家に持ち帰る。夜，フクロウ神は人が寝ている間に宝物を降らせ，家も立派に作りかえてやる。それ以後，意地悪な村人も心を入れ替えて，仲よく暮らし，フクロウ神は人間を見守り，人間はお酒や供物を送ってくる。

昔話としてみれば，それほど変ではないかもしれないが，初めは鳥として描かれているのに，途中から人間のような描写がなされたり，死んでいるのに，生きているようにふるまって神通力をふるう，というように，よく考えると奇妙な展開になっていることがわかる。また，第８話の「海の神が自ら歌った謡」においても，はじめは人間の話か，と思う描写がなされているが，実はそうではなく，途中から登場者は実はシャチである，ということが示唆される。このように，ストーリーに飛躍があり，一見，非論理的で，つじつまがあわない感じを受けることが，『アイヌ神謡集』の理解を妨げる一因となっていると思われる。既に述べたように，実は，この困難は，「目に見える世界」と，「目に見えない世界」，という二つの視点が「同時に」描かれるために起きる難しさであると言える。しかし，アイヌ文化は，二つの異なる視点を同時に使って世界を見ることが，よりよく現実を描写する方法だ，と考えているわけである。以下に，その点について簡単にみてみよう。

第１話のフクロウ神の物語からわかるように，アイヌ文化では次のように考える。神は，「目に見えない世界」では人間と同じような存在だが，人間が住む「目に見える世界」を訪問する時は，動物などに変装してやって来る。

人間は，神の訪問に感謝し，丁寧に儀礼を行って，魂をまた神の国に送り返してあげる。そうすると，神はまた訪れてくれる，という思想が述べられていると言える。人間は動物や植物（自然）を取って利用しないと生きていけない。しかし，際限なく取ってしまうと，取れなくなってしまう危険性がある。他方，「神」として敬っているだけだと，取って利用することができなくなる。自然を利用しなければ人間は生きていけない，という現実と，自然を利用し過ぎて破壊してしまったら，やはり人間は生きて行けないので，自然を保護しなければならない，という矛盾した要求を同時に解決するにはどうすれば良いか。そこで，「神を人間に近く描く」という手法が意味を持ってくるのだと思われる。

たとえば，「どうやったらいじめをなくせるか」について考えて見ると，仮想的には，被害者と加害者が痛みを共有できればいじめは減るだろう。相手を蹴ったら，相手はもちろん痛いが，同じ痛みが蹴ると同時に蹴った方にも即座に返って来るのであれば，そう簡単に他者に危害を加える，ということはできなくなるはずである。「いじめ」は，相手が自分とは無関係の存在である，と疎外した時に起きる。この点で，「自然」（神）を，人間と同一の存在である，とする考え方は，自然を過度に乱用することを防止する上で有効に働くと言える。その一方で，「変装」という要素を加えておくことにより，動植物の「肉体」は適正に利用するのであれば利用が可能，という柔軟なシステムを構築することができる。このような自然観を共有することでサスティナブルな社会を構築する基盤が築かれているのだと考えられる。

ちなみに，以上のような世界観は，社会学的，生態学的な機能とは別に，純粋に文学作品として見た場合にも，アイヌ文学に独特な効果を与えていると言える。アイヌ文学は世界を「目に見える世界」と「目に見えない世界」という二つの世界からなるとみる世界観に立脚している（佐藤 2001）。しかも，二つの異なる視点から同時に世界を描くため，「人間に近い，親しみのある存在」という側面と，「人間には到底，理解不能な，予測不能な恐ろしい存在」という両面が同時に描かれるので描写に深みが出ると考えられるのである。既に，上でも触れたが，第 8 話の海の神の物語では，無口でおとなしい

末弟が，クジラ漁に行くと，一瞬にしてクジラを一突きにして，両断し，切り身を人間にほうってやる，という，恐ろしい姿を見せる。また，第１話のフクロウ神も，少年の矢で簡単に殺されてしまう，か弱い存在かと思いきや，実はそうではなく，金銀を降らせ，一夜にしてあばら家を大邸宅に変えてしまう，驚くべき超能力の持ち主，という二面性を持った存在として描かれている[4]。また，地味な描写であるので，あるいは気が付かれにくいと思われるが，第 13 話の沼貝の神の描写も，同種の「不気味さ」を秘めている。干ばつで水がなくなり，今にも死にそうになって，沼貝は，最初は「誰か助けて！水を，水を！」と叫ぶ，か弱い存在として描かれているのに，後のほうでは，自分達を踏み潰した，意地悪な人間の娘の村の穀物をすべて枯らす，という，恐ろしい超能力を持った存在として描かれている（そんなに，なんでもできる，強い神であるならば，「水をちょうだい，助けて！」なんて言っていないで，最初から自分を助ければよいわけだが，わざと，そう描いて，二重性を持った，恐ろしさを秘めた存在，として描いているわけである）。「神」を単に「偉大な，強い，理想の存在」として描くのではなく，「目に見える世界」では，弱い存在，人間よりも劣った存在のようにも見えるが，「目に見えない

[4] なお，第１話は悪者が罰を受けていないので，著者がキリスト教に基づく博愛的な内容に修正したのだ，という解釈もあるようであるが，一面的であると思う。この話の理解には，「昔の貧乏人」，「今の貧乏人」という，「昔と今」を対比した表現が冗長と思えるほど繰りかえされている点に気付くことが重要であると思う。伝統に基づく古い時代のアイヌ社会では弱者と強者が入れ替わるのは普通なのであり，だからこそ，強者が弱者を虐待することは実際には強く規制されていたと思われる。本当に弱肉強食が是とされてしまったら，自然に大きく依存する社会では今日の強者は明日の弱者なのであり，共倒れの可能性が高い。第１話における弱者の虐待は「口承文芸が階級の存在を証する貴重な歴史的証拠」などではなくて，あくまでも「お話の中の話」として意識されたと思われる。つまり，神が超能力を使って，一夜にして貧者と富者の立場を逆転させる，というストーリーは，伝統社会では，誰にでも起きうる最も恐ろしい出来事として生々しく意識されたろうと思われる。これだけで，十分，恐ろしい刑罰になっているのである。それに，何よりも理解できる人間が少ないにもかかわらず，原文をローマ字で載せようとした著者が，わざわざ内容を修正するだろうか，という重大な点をキリスト教改変説は軽視していると思う。

世界」では，人間など，思いも及ばない，強大な力を持った，二面性を持つ無気味な存在である，として描く，というところに，アイヌ文学の描写の一つの特色があるのではないか，と考える。このように，アイヌの文学は，「神の偉さ」というものを描くことを第一にめざしている文学だ，と言える。そして，「神は偉大である」ということをよりリアルに感じさせるために「二つの世界のそれぞれで，異なる姿を見せる存在を，同一場面で二重写しに描く」という，いわば「前衛的」なテクニックを採用している点が，アイヌ文学を極めてユニークな存在にしているのではないかと思う。

5．芥川は『アイヌ神謡集』の何に感心したか？

さて，ここで，最初の問いに戻ろう。芥川は，アイルランドの作家ジェイムズ・ジョイスの「若い芸術家の肖像」（A portrait of the artist as a young man）を自分で翻訳しており，何らかの影響を受けているのではないか，という指摘が既にある（鈴木 2009）。翻訳原稿は，わずか数葉であるが写真版（山梨県立文学館編 1993）で公表されている（佐藤には判読不能な箇所があり，不十分なものであるが，翻刻は以下の参考資料 4 を参照）。少なくとも，同時代の，ヨーロッパの最先端の文学の潮流に芥川は深い関心を持っていたのだと思われる。ジョイスの作品の特徴の一つは，同じ場面の中に全く異なる描写が自由に現れる，という点である（参考資料 3 を参照）。たとえば，童話のような文体が現れたかと思えば，通常の叙述が継ぎ目なしにその後に続く，というようなものである。また，同時代のヴァージニア・ウルフの「ダロウェイ夫人」（参考資料 2 参照）も，客観描写で始まる冒頭部分のすぐ後に，主人公の内面描写が継ぎ目なしにいきなり続いている。同一場面に異なる時空の描写が同時に展開されるのである。つまり，いずれも，「世界を，異なる視点から同時に描いている」という点に大きな共通性があると言える。このような手法は作者が丁寧に読者に順を追って状況を説明する，というよりは，異なる複数の視点に基づく描写を読者が自力で合成して総体的なイメージを作りあげることを要求するわけで，前衛的であり，読者の高い理解力を前提

とする，特殊な文学技法であると言える[5]。ここで想起されるのが『アイヌ神謡集』にあらわれる「目に見える世界」と「目に見えない世界」という，二つの異なる視点を，同時に継目なしに同じ作品の中で描写する，という叙述方法である。ひょっとすると，芥川は，ジョイスやウルフのような作家によって唱道されつつあった，当時の最先端の文学的潮流（モダニズム）（『世界文学大事典』編集委員会（1997：815））で新たに発見されたと思われていた手法が，既にアイヌ文学において巧みに実践されていることを『アイヌ神謡集』に見て取って，新鮮な驚きを感じたのではないか。その驚きを，ジョイスを初めとするアイルランド文学，英文学の専門家で，最新の動向に通じていた松村みね子（片山廣子）に伝えたかったのではないだろうか[6]。

6．終わりに

以上，青年時代に佐藤が感じた疑問に対する考えを「研究ノート」として述べたが，単なる憶説以上のものではない。今後，拙稿がきっかけとなって，各専門家による本格的な研究がなされることを願ってやまない。

---

[5] 同様に，文学だけではなく，絵画の分野においても，同一画面に異なる視点からの描写を同時に描く表現手法（キュビズム）が一般化していく。アイヌ文学の手法は，「見えないはずのもの」が「見えるもの」として同時に描かれる，という点で，いわば絵画で言うところの「キュビズム」に類似した点があると思う。

[6] 芥川の旧蔵書は日本近代文学館に収められ，目録も作成されているが（日本近代文学館（編） 1977），その中には『アイヌ神謡集』は含まれていない。また，松村みね子の旧蔵書は，母校の東洋英和女学院に寄贈されているが，やはり『アイヌ神謡集』は含まれていない（東洋英和女学院資料室委員会 2006）。なお，北海道博物館には，山田秀三氏の蔵書が寄贈されており，その中に芥川旧蔵の『遠野物語』があるということである（小川正人氏の御示教による）。想像をたくましくすれば，芥川が片山廣子に貸したものが，そのまま残されたものである可能性があり，『アイヌ神謡集』も，あるいは芥川から片山廣子の手に渡ったかもしれない。今後，発見されれば，何か手がかりが得られるかもしれない。なお，北海道博物館の山田氏旧蔵書の『神謡集』は出版年からみて，少なくとも片山廣子旧蔵書の可能性は少ない，ということである（やはり前記小川氏のご示教による）。

参考資料１：

知里幸恵『アイヌ神謡集』第８話，海の神が自ら歌った謡

「アトイカトマトマキ　クントテアシ　フム　フム！」

１：アトイカ　トマトマキ　クントテアシ　フムフム
２：長い兄様，六人の兄様，長い姉様，六人の姉様
３：短い兄様，六人の兄様，短い姉様，六人の姉様が
４：私を育てて居たが，私は
５：宝物の積んである傍に高床をしつらえ，その高床の上に
６：すわって鞘さや刻み鞘彫り
７：それのみを
８：事として暮していた.
９：毎日，朝になると兄様たちは
10：矢筒を背負って姉様たちと一しょに出て行って
11：暮方になると疲れた顔色で
12：何も持たずに帰って来て姉様たちは
13：疲れているのに食事拵こしらえをし，私にお膳を出して
14：自分たちも食事をして食事のあとが片附くと，
15：それから兄様たちは矢を作るのに忙しく手を動かす.
16：矢筒が一ぱいになると，みんな疲れているものだから
17：寝ると高鼾たかいびきを響かせてねむってしまう.
18：その次の日になるとまだ暗い中に
19：みんな起きて姉様たちが食事拵えをして私に膳を出し
20：みんな食事が済むと，また矢筒を背負って
21：行ってしまう．また夕方になると
22：疲れた顔色で何も持たずに帰って来て
23：姉様たちは食事拵え，兄様たちは矢を作って，
24：何時いつでも同じ事をしていた.
25：ある日にまた兄様たち姉様たちは

26：矢筒を背負って出て行ってしまった.
27：宝物の彫刻を私はしていたがやがて
28：高床の上に起き上り金の小弓に
29：金の小矢を持って外へ出て
30：見ると海はひろびろと凪なぎて
31：海の東へ海の西へ鯨たちが
32：パチャパチャと遊んで居る．すると
33：海の東に長い姉様，六人の姉様が手をつらねて輪をつくると，
34：短い姉様，六人の姉様が，輪の中へ鯨を追い込む，
35：長い兄様，六人の兄様，短い兄様，六人の兄様が
36：輪の中へ鯨をねらい射つと，その鯨の
37：下を矢が通り上を矢が通る.
38：毎日毎日彼等はこんな事をして
39：いたのであった．見ると海の中央に
40：大きな鯨が親子の鯨が上へ下へ
41：パチャパチャと遊んで居るのが見えたので
42：遠い所から金の小弓に金の小矢を
43：番つがえてねらい射ったところ，一本の矢で
44：一度に親子の鯨を射貫いてしまった.
45：そこで一つの鯨のまんなかを斬って
46：その半分を姉様たちの輪の中へ
47：ほうりこんだ．それから鯨一ツ半の鯨を
48：尾の下にいれて人間の国に
49：むかって行きオタシュツ村に
50：着いて一ツ半の鯨を
51：村の浜へ押し上げてやった.
52：それから海の上にゆっくりと
53：游いで帰って
54：来たところが，誰かが

55：息を切らしてその側をはしるものがあるので
56：見ると，海のごめであった.
57：息をきらしながら云うことには,
58：「トミンカリクル　カムイカリクル　イソヤンケクル
59：勇マシイ神様，大神様,
60：あなたはなんの為に，卑しい人間共，悪い人間共に
61：大きな海幸をおやりになったのです.
62：卑しい人間共，悪い人間共は，斧もて
63：鎌をもて大きな海幸をブツブツ切ったり突っついたり
64：削り取っています，勇ましい神様
65：大神様さあ早く大海幸を
66：お取り返しなさいませ．あんなに沢山，海幸をおやりに
67：なっても卑しい人間たち悪い人間たちは
68：有難いとも思わずこんな事をします.」
69：と云うので私は笑って云う
70：ことには,
71：「私は人間たちに呉れてやったものだから
72：今はもう自分の物だから，人間たちが
73：自分の持物を鎌でつつこうが斧で
74：削ろうがどうでも
75：自分たちの自由に食べたらいいではないか
76：それがどうなのだ.」と云うと
77：海のごめは所在無げにしているけれども

Repun Kamui yaieyukar, “Atuika
tomatomaki kuntuteashi hm hm!”

1：Atuika tomatomaki kuntuteashi hm hm!
2：Tanneyupi iwan yupi tanne sapo iwan sapo

3 ：takne yupi iwan yupi takne sapo iwan sapo
4 ：unreshpa wa okayash ko chiokai anak
5 ：ikittukari chituyeamset amset kashi
6 ：chiehorari, kepushpenuye shirkanuye
7 ：chikokipshirechiu, neambe patek
8 ：monraike ne chiki kane okayash.
9 ：Keshtoanko kunnewano chiyuputari
10：ikayop se wa chisautari tura soyunpa wa,
11：onumananko semiporkan toine kane
12：nepka sakno hoshippa wa, chisautari
13：shinki shiri shuke kiwa unkoipunpa,
14：okaiutar nakka ipe wa iperuwoka chishiturire ko,
15：orowano chiyuputari aikarneap kotekkankari,
16：ikayop shik ko, opittano shinkipne kushu,
17：hotke wa etorohawe meshrototke.
18：Ne shimkeanko kunnenisat pekernisat
19：ehopunpa, chisautari shuke wa unkoipunpa,
20：opittano ipeokere ko too shui ikayop se wa
21：paye wa isam. Shui onumananko
22：semiporkan toine kane nepka sakno arki wa,
23：chisautari shuke, chiyuputari aikar kane
24：hempara nakka ikichi kor okai.
25：Shineantota shui chiyuputari chisautari
26：ikayop se wa soyunpa wa isam.
27：Ikorkanuye chiki kor okayash aine
28：amset kata hopunpaash konkani ponku
29：konkani ponai chiukoani, soineash wa
30：inkarash awa, netokurkashi teshnatara,
31：shiatuipa wa shiatuikesh wa humpeutar

32：shinotshirkonna chopopatki ko,
33：shiatuipata tanne sapo iwan sapo sai kar ko,
34：takne sapo iwan sapo sainikor un humpe okeupa,
35：tanne yupi iwan yupi takne yupi iwan yupi
36：sainikor un humpe ramante ko neanhumpe
37：chorpoke aikush enkashi aikush.
38：Keshtokeshto eneanikichi kikor okairuwe
39：nerokokai. Inkarash ko atuinoshkita
40：shinokorhumpe upokorhumpe heperai hepashi
41：shinot shiri chopopatki, chinukar wakushu
42：otuimashir wa konkani ponku konkani ponai
43：chiuweunu chitukan awa earai ari
44：shineikinne upokorhumpe chishirko chotcha.
45：Tataotta shinehumpe noshki chituye
46：humpearke chisautari sainikorun
47：chieyapkir, orowano humpearke etuhumpe
48：chiishpokomare, ainumoshir
49：kopake un yapash aine Otashut kotan
50：chikoshirepa, humpearke etutumpe
51：kotanrakehe chikooputuye.
52：Taporowa atuiso kata moireherori
53：chikoyaikurka omakane, hoshippaash wa
54：arpaash awa, kanakankunip
55：hesehawe taknatara, unpishkani ehoyupu,
56：ingarash awa atuichakchak ne kane an.
57：Tashkan tuitui kor ene itaki: ——
58：“Tominkarikur Kamuikarikur Isoyankekur
59：kamuirametok pasekamui,
60：nep ekarkushu toyainuutar wenainuutar

61：kuntuiso ekoyanke ruwetan.
62：Toyainuutar wenainuutar mukar ari
63：iyoppe ari kuntuiso taukitauki toppatoppa
64：keurekor okaina, kamuirametok
65：pasekamui keke hetak kuntuiso
66：okaetaye yan. Tepeshkeko iso ayanke yakka
67：toyainuutar wenainuutar
68：eyairaike ka somokino ene ikichii tan."
69：hawokai chiki chiemina, itakash hawe
70：naikosanu, ene okai: ——
71："Ainupitoutar chikorparep ne kushu
72：tane anakne korpe newa anpe Ainupitoutar
73：yaikota korpe iyoppe ari hene mukar ari hene
74：tokpatokpa meshpameshpa nekona hene
75：ene kanrushuii nepkor kar wa epa ko
76：nekonne hawe?" itakash awa
77：atuichakchak eramuka patek kane okai korka,

（「青空文庫」による）

参考資料２：

ヴァージニア・ウルフ（1882–1941）
ダロウェイ夫人（1925）

ダロウェイ夫人は，自分で花を買ってくると言った。

なにしろルーシーは手一杯であったから。ドアは蝶つがいからそっくり外されるだろう。それにはランプルメイア商会の職人が来てくれるはずだ。それに，ああ，なんというすばらしい朝だろう―海辺の子供たちが迎えた朝のように新鮮で。

まあ愉快！家から外へ飛びだしたときのあの気持，むかしブァトンでフラ

ンス窓をさっとあけ，大気のなかに飛び込んだとき。そのときの蝶つがいのキーキーきしむ音が聞こえるようだ。早朝の空気はなんと新鮮で，なんと静かだったか。勿論，このロンドンよりずっと静かで，波がはたはたと寄せ，索足をキスしてゆくにも似た，冷たく，鋭い惑じ。しかも（当時十八歳の娘であった彼女にとって）おごそかであった。なぜなら彼女は開けひろげたフランス窓を一歩踏みだして，なにか恐ろしいことが起りそうな予感を持ったから。

（ウルフ（近藤いね子訳）（1999）による）

f

VIRGINIA WOOLF
MRS DALLOWAY

Mrs Dalloway said she would buy the flowers herself. For Lucy had her work cut out for her. The doors would be taken off their hinges; Rumpelmayer's men were coming. And then, thought Clarissa Dalloway, what a morning — fresh as if issued to children on a beach.

What a lark! What a plunge! For so it had always seemed to her when, with a little. squeak of the hinges, which she could hear now, she had burst open the French windows and plunged at Bourton into the open air. How fresh, how calm, stiller than this of course, the air was in the early morning; like the flap of a wave; the kiss of a wave; chill and sharp and yet (for a girl of eighteen as she then was) solemn, feeling as she did, standing there at the open window, that something awful was about to happen;

(Woolf (1996) による)

参考資料３：

ジェイムズ・ジョイス（1882-1941）
若い芸術家の肖像（1916）

むかしむかしのそのむかし とってもたのしいそのむかし うしモーモーがやってきた。みちをやってきたうしモーモー　かわいいちっちゃなぼうやにあったとさ　ぼうやのなまえはくいしんぼぼうや・・・・・・

このおはなし，おとうさんがしてくれた。めがねごしにぼくをみてるおとうさん。おおきなおかおはひげだらけ。

くいしんぼぼうや，それはぼく。うしモーモーがやってくるあのみちにはベティ・バーンズがすんでいる。レモンのあじするねじりあめをうってるんだ。

おお，野ばらはなさく
ちいさなみどりの原。

ぼくはこのうたをうたう。このうた，それはぼくのうた。

おお，みろりバヤははらしゃく。

おねしょすると　はじめはあったかくって　それからつめたくなる。おかあさんがあぶら紙をしいてくれる。おかしなにおい。

おかあさんはおとうさんよりいいにおいがする。おかあさんがピアノで舟のりのホーンパイプ・ダンスをひいてくれる。ぼくのおどりだ。ぼくはおどる。

トラララ　ララ
トラララ　トラララディ
トラララ　ララ
トラララ　ララ。

チャールズおじさんとダーンティが手ぴょうしをうつ。どっちもおとうさんやおかあさんより年うえだ。でもチャールズおじさんはダーンティよりも年がうえ。

ダーンティのたんすにはブラシがふたつ。せなかにくり色のビロードがついてるブラシはマイクル・ダヴィットのため，みどりのピロードつきのブラシはパーネルのため。ティッシュペーパーをとってあげるとダーンティはいつもカシューあめをひとつくれる。

ヴァンスのうちは七ばんち。ぼくんちとはちがうおとうさんとおかあさんがいる。アイリーンのおとうさんとおかあさん。大きくなったらアイリーンとけっこんするんだ。テーブルのしたにかくれた。おかあさんがいう。

―さあ，スティーヴン，ごめんなさいするわね。

ダーンティがいう。

―そう，あやまらないと，わしがとんできておめめをくりぬきます。

おめめをくりぬくぞ，
あやまれ，
あやまれ，
おめめをくりぬくぞ。

あやまれ，
おめめをくりぬくぞ，
おめめをくりぬくぞ，
あやまれ。

ひろいグラウンドいちめんに生徒がむらがっていた。みんなはさけび声をあげ，先生たちも大きな声ではげましている。夕ぐれの空気はあおじろくつめたい。うばいかえされてどすんとけられるたびに泥まみれの革の球がはい色の光のなかを重たい鳥のようにとんでゆく。彼は味方チームのはしっこにへばりつき，先生の目もとどかず，あらっぽい足にけとばされないところで，

ときどき走るふりをしていた。こうしてフットボールのむれにまじると自分のからだが小さくてよわよわしい気がして，目がかすみ涙ぐんでしまう。ロディ・キッカムはこんなじゃない。下級組のキャプテンになるのはあいつだろうって，みんなそういってる。

（ジョイス（大澤正佳訳）2007）による）

JAMES JOYCE
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN

Once upon a time and a very good time it was there was a moocow coming-down along the road and this moocow that was coming down along the road met a nicens little boy named baby tuckoo....

His father old him that story: his father looked at him through a glass: he had a hairy face.

He was baby tuckoo. The moocow came down the road where Betty Byrne lived: she sold lemon platt.

O, the wild rose blossoms
On the little green place.

He sang that song. That was his song.

O, the green wothe botheth.

When you wet the bed, first it is warm then it gets cold. His mother put on the oilsheet. That had the queer smell.

His mother had a nicer smell than his father. She played on the piano the sailor's hornpipe for him to dance. He danced:

Tralala lala.
Tralala tralaladdy
Tralala lala

Tralala lala.

Uncle Charles and Dante clapped. They were older than his father and mother but uncle Charles was older than Dante.

Dante had two brushes in her press. The brush with the maroon velvet back was for Michael Davitt and the brush with the green velvet back was for Parnell. Dante gave him a cachou every time he brought her a piece of tissue paper.

The Vances lived in number seven. They had a different father and mother. They were Eileen's father and mother. When they were grown up he was going to marry Eileen. He hid under the table. His mother said:

- O, Stephen will apologize.

Dante said:

-O, if not, the eagles will come and pull out his eyes.

Pull out his eyes,
Apologize,
Apologize,
Pull out his eyes.

Apologize,
Pull out his eyes,
Pull out his eyes,
Apologize.

The wide playgrounds were swarming with boys. All were shouting and the prefects urged them, on with strong cries. The evening air was pale and chilly and after every charge and thud of the footballers the greasy leather orb flew like a heavy bird through the grey light. He kept on the fringe of his line, out of sight of his prefect, out of the reach of the rude feet, feigning to run now and then. He felt his body small and weak amid the throng of players and

his eyes were weak and watery. Rody Kickham was not like that: he would be captain of the third line all the fellows said.

（Joyce（1977）による）

参考資料 4 ：

芥川龍之介訳「ディイダラス」草稿

自習室に坐ったまま，彼は机のをあけた。そうして中に貼つてある番号を　七十七番から七十六番に取り替えた。しかしクリスマスの休暇はまだずつと遠い。しかし何時かは来るに違ひない。地球始終廻転してゐる

から。

彼の地理の書の第一頁には，地球の図が描いてある。雲の中にある，大きな球が。フレミング（彼の名）は［三字欠］の箱を持つてゐる。さうして或晩□□の時間に，彼は地球を緑色に，雲を海老茶色に色どつて置いた。それはダンテの戸棚にある，二つのブラツシユのやうであつた。緑色の天鵞絨の背のある，パアヌルのブラツシユと　　海老茶色の天鵞絨の背のある，マイケル・デエウィツトのブラツシユと。しかし，彼（ダ

ンテ）はフレミングに，地球や雲をさう云ふ色に彩れと云つた事はなかつた。フレミングが勝手に彩つたのである。

彼は地理の書をあけて，勉強にとりかかつた。しかし彼は亜米利加の地名を覚える事

が出来なかつた。それでもそれらはそれぞれ違

つた名前がある　みんな別々の場所であつた。そ
れらはみんな違つた国にあり，その国々はいろいろな大
陸にあり，大陸は世界の中にあり，世界は宇
宙の中にあつた。

　彼は地理の書のフライ・リイフに向つた。さ
うして其処に書いて置いた事を読んだ。彼自
身と彼の名と彼のゐる場所の事とを。
　　ステファン・ディイダラス

　　クロンゴオスウツド学校
　　サリンズ。
　　キルデェア州
　　愛蘭土
　　欧羅巴

　　宇宙
それは彼の筆蹟だつた。フレミングは或晩
［六字欠］その頁の裏へかう書いて置いた。
ステファン・ディイダラスはわが名なり
愛蘭土はわが国家ぞ
クロンゴオスはわが住む地なり
さて天

（“A Portrait of the Artist as a Young Man”より）
（大正十二年頃）
（山梨県立文学館（編）（1993）による）

参考文献

知里幸恵（編訳）（1978）『アイヌ神謡集』東京：岩波書店.
知里幸恵（編訳）（1978）『アイヌ神謡集』「青空文庫」
［2023 年 8 月 27 日閲覧］
Joyce, James（1977）*A portrait of the artist as a young man*. London: A Triad Grafton Book.
ジョイス，ジェイムズ（大澤正佳訳）（2007）『若い芸術家の肖像』東京：岩波書店.
片山廣子（2004）『燈火節』東京：月曜社.
切替英雄（2003）『アイヌ神謡集辞典』東京：大学書林.
川村湊（2005）『物語の娘 ── 宗瑛を探して』東京：講談社.
日本近代文学館（編）（1977）『芥川龍之介文庫目録』東京：日本近代文学館.
佐藤知己（2001）「アイヌ文学における一人称体の問題」『北海道大学文学研究科紀要』112：171–185.
佐藤知己（2004）「知里幸恵『アイヌ神謡集』の難読個所と特異な言語事例をめぐって」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』10：1–32.
『世界文学大事典』編集委員会（1997）『集英社　世界文学大事典　5』東京：集英社.
鈴木暁世（2009）「芥川龍之介とジェイムズ・ジョイス：『若い芸術家の肖像』翻訳と『歯車』のあいだ」『大阪大学大学院文学研究科紀要』49：21–41.
東洋英和女学院資料室委員会（2006）「資料室だより」67．東京：東洋英和女学院.
渡辺仁（2000）『縄文式階層化社会』東京：六一書房.
Woolf, Virginia（1996）*Mrs. Dalloway*. London: Penguin Books.
ウルフ，ヴァージニア（近藤いね子訳）（1999）『ダロウェイ夫人』東京：みすず書房.
山梨県立文学館（編）（1993）『芥川龍之介資料集図版 2』甲府：山梨県立文学館.